

# 母の愛は 海より深し 山よりも高し



5月の第2日曜日は母の日でした。私(校長)には79歳の母がいます。私が小学校6年の時に父が病死したため、それ以来母は一人で私と妹を懸命に育ててくれました。二人の子育てのために人生の多くを費やしたような母です。私が29歳の時、母はガンになりました。その当時、私は椎葉小学校に勤務していたので、1日に椎葉と宮医大を2往復したこともありました。長い道のりでしたが、「何とか持ちこたえて欲しい」と祈る気持ちと「元気づちに親孝行をすればよかった」と悔やむ気持ちが交錯し、その時どう運転したかあまり覚えていません。なんとか、今では普通に生活できるようになり、照れ臭いですが、少しずつ、感謝の気持ちを形にしようと頑張っています。(遅すぎましたが・・・)

さて、中学生にとっての親孝行はどんなことでしょうか。お手伝いをしたり、親に感謝の言葉を伝えたりするなど形は様々であれ、どれもすばらしいことだと思います。また、子どもが笑顔で話してくれる、目標をもって元気に成長している、好きなことに夢中になっているなど、親にとってはどれもうれしく、それが日々の親孝行なのかもしれません。

以前読んだ本に次のような話が有り感動しました。

俺の家は貧乏だった。運動会の日も、授業参観の日さえもオカンは働きに行っていた。そんな俺の15歳の誕生日、オカンがうれしそうに俺にプレゼントを渡してくれた。ミチコロンドンのトレーナーだった。俺はありがとうと言いつつも、恥ずかしくて着られないなど内心想っていた。その夜考えていた。差し歯を入れるお金もないオカン、ぜいたくはせず、手はかさかさで、化粧なんて当然していない。こんなトレーナー買うらいたら他の事に使えよ…。そんな事を考えながら、昔のアルバムを見てみたくなった。若い時のオカンが写っている。えっ！俺は目を疑った。まるで別人だった。きれいに化粧をし、健康的な肌で白い歯をのぞかせながら笑っている美人のオカンがいた。俺は涙が止まらなくなった。俺を育てるために女を捨てたオカン。ミチコロンドンのトレーナーを腕に抱き、その夜は眠った記憶がある。それから少しばかり時は流れ、俺は高校卒業後の進路を考えなければいけない時期になっていた。大学進学はとっくにあきらめていた。学校で三者面談が行われた時、オカンが先生に向かって言った。「大学に行かせるにはいくらお金が掛かるのですか?」。俺は目を疑った。びっくりしている俺を横目に、オカンは貯金通帳を先生に見せて、「これで行けますか?」と真っ直ぐな眼で先生を見つめた。それから俺は死ぬものぐるいで勉強し、大学に合格することができた。郷里を離れる際、オカンが俺に真っ赤なマフラーを渡してくれた。学費をかきながらの大学の生活は苦しくもあったが、マフラーを見ると元気が出た。それから時は流れ、会計士になった俺は来年の春結婚する。そして生活を共にする。俺と最愛の妻と最愛の母とで。なんとしても二人を守ってみせる。色あせたトレーナーとほつれたマフラーを目の前にして俺はそう誓った。サンキュー、オカン。

## 臨時休業中の一コマ・・・

技術員の皆さんに、テニスコートやその他の雑草をきれいに刈っていただきました。また、全職員で教頭先生の指導の下、2年生の育成栽培用の花壇づくりと苗植えをしました。生徒たちのピンチヒッターでやりましたが、みんな楽しそうにやっていました。今後に楽しみです。



## 学校再開に向けて



今月の18日(月)から午前中までですが、学校が再開しました。本格的な再開は翌週の25日(月)からになります。どのご家庭でも職場でもそうだと思いますが、本校でも、悩みの種は尽きません。コロナウィルスの感染防止はもちろんのこと、マスクによる脱水リスク、教室等の毎日の消毒、実技教材の実施方法、部活動の在り方、授業時数の補充の仕方、生徒たちに何とか経験させたい学校行事の時数削減等、毎日のように職員が真剣に話し合っています。課題は数えればきりがありません。しかし、残された時間の中で、何が生徒たちのためになるのかを様々な面から丁寧にそして生徒に寄り添って考えていくしかありません。緊急事態宣言の解除により、少しずつ元の生活に戻ってほしいものですが、これからも緊張感をもって、学校再開に向かいたいと思います。